

私の実践紹介

文学的文章を主体的に読み深め、自らの思いや考えを表現できる子供の育成

さつま町立盈進小学校 教諭 福元 真太郎

はじめに

社会の変化が激しい現在、子供たちに課題を解決するには何が必要かを自ら考え、見通しをもって学習に臨む力を身に付けさせることが極めて重要です。本研究は、「主体的・対話的で深い学び」を取り入れた国語科の学習が、他教科はもとより、いろいろな分野へ発展し、子供たちの将来に役立つものになると考えて取り組んだものです。

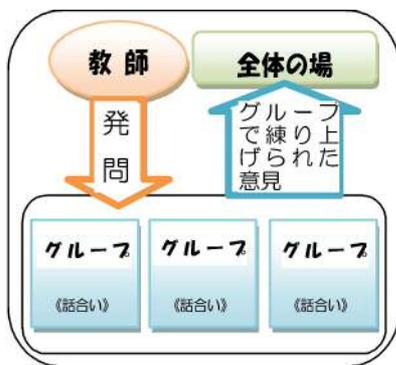
研究の実際

導入段階の工夫及び学習への意識化

導入段階では、子供たち一人一人が課題意識をもち、表現活動をイメージして身に付けたい力を見据えるようにすることが必要になります。そのために、まず、学習内容についての事前アンケートを取り、教材文の初発の感想を書かせました。さらに、自分たちの現状を知らせた上で学習の必要性を感じさせました。その後、学習課題「心に残ったことを感想文に書こう」を設定しました。

グループワークによる学習

本単元では、多くのグループワークを取り入れました。グループワークでは、各自が意見を述べる機会が増え、更に話し合いによってよりよい案を作り出そうとする雰囲気が生まれます。



【グループワークのイメージ】

モデル文の分析

全国読書感想文コンクール内閣総理大臣賞を受賞した4年生の読書感想文をモデルとして取り上げ、「段落構成」と「内容(何が書かれているか)」を分析させました。文章を「初め・中・終わり」に分け、段落に小見出しを付ける活動を行いました。



【モデル感想文の分析シート】

感想文を書くための教材文を読む工夫

教材文を読み方の視点「物語の設定」、「登場人物の変化」、「表現の効果」に沿って読み進めていきました。また、ここでは前時に学習したモデル文の分析が関わるので、モデル文に書かれていた内容を基に読んでいくことも必要です。

感想文の作成及び初発の感想との比較

四百字程度という字数制限と家族に読んでもらうという相手意識・目的意識をもたせました。段落部分だけに目を向けるのではなく、全体を一つの作品と捉え、書いては読み直す作業を心掛けるよう指導しました。ここでもグループワークを導入し、お互いに読み合い交流する場を設定し、完成した感想文と初発の感想とを比較させました。比較させることで子供たち一人一人に達成感を味わわせたいと考えたためです。

学習後の振り返り

学習の終末では、子供たちそれぞれが成果と課題を考え、自覚することが大切です。本実践では自己評価の他に相互評価も行い、自分では気付かなかったことをお互いに交流し教え合う場を設定しました。自己評価については、4段階での評価と自由記述を行いました。この活動で子供たちは達成感と次の学習への意欲をもつことができました。

おわりに

新学習指導要領では「主体的・対話的で深い学び」が大きな柱となっています。具体的に授業をどのように改善していくかを念頭に実践の蓄積が必要です。学校全体で授業づくりの工夫・改善に努めていきたいと思っております。